

+

公益社団法人  
茨城県看護協会  
Ibaraki Nursing Association

No. 97  
2012年5月10日

# 看護いばらき



協会立「訪問看護ステーション絆」が開設しました。

## CONTENTS

- 平成23年度茨城県医療安全研修会 ..... P2
- 輝け!ナースマン ..... P6~7
- ザ・シリーズ 地域連携～訪問看護～ ..... P3
- 協会からのお知らせ ..... P8~12
- そよかぜ 私の専門～認定看護師 ..... P4
- 広報委員会からのお知らせ ..... P12
- 私の職場 ..... P5

# 平成23年度 茨城県医療安全研修

平成24年2月22日(水)茨城県立県民文化センター小ホールにおいて、医師・薬剤師・看護師など多職種の医療従事者約400名参加のもとに開催されました。

本研修会は、茨城県との共催で、医療機関における医療安全対策に関する講演、事例研究等による研修を行うことにより、医療従事者等の資質向上を図り、もって医療安全の向上に資する事を目的に実施されています。

## 特別講演



### 「医療トラブルの対応」



茨城県医師会副会長 石渡 勇先生

茨城県医師会の取り組みについて、医療紛争処理・医療ADR(医療問題中立処理委員会)・診療情報提供・医療安全対策の現状・事例等を交え対応の方法等を述べられた。

### 「安全安心な医療・看護を提供するために

#### ～さまざまな答えを探る～

がん・感染症センター都立駒込病院 釜 英介先生

リスク感性を磨く教育のすすめとして、クイズ形式で演習を行い、事故をいかに防ぐか、また看護師のメンタルヘルスケアについては医療事故の当事者(被害者・加害者)の声や今新人が直面している問題について述べられた。



## 参加の動機

- 医療安全に普段から関わっているため、医療トラブル対応に興味があった。
- 釜先生の講演に興味があった。
- 上司に勧められた。

## 参加者の感想

- 講演内容が、具体的で分かり易かった。
- 新人との関わりに実践できそう。
- 事故の当事者だけでなく、フォローする周りの人のメンタルケアも必要だと言うことが分かった。

## 取材ノート

釜先生の講演での感性を磨くクイズでは、皆様と一緒に参加し身近な問題からの出題で、事故の方程式を知ることができました。また、看護師へのメンタルヘルスケアでは、当事者だけではなく、施設全体で関わっていくことが重要であることを再認識しました。

どのテーマも現在の医療の現場で問題となっているものであり、参加されている方々の真剣に聴講しメモを取っている姿に医療安全に対する意識の高さを痛感しました。

取材 広報委員

松村淳子・菊池洋子・高橋令恵

# ザ・シリーズ 地域連携～訪問看護～

～地域に密着した訪問看護を目指して～

真壁医師会 訪問看護ステーションしもだて  
島田 淳子

## ●ステーションデータ

平成8年4月に名称変更し「真壁医師会訪問看護ステーションしもだて」となり、現在に至っています。スタッフは看護師4名、事務職1名で、24時間連絡対応体制で支援しています。



## ●特色・取り組み

ここ数年、筑西市内でも75歳以上の高齢者が増大し、又、認知症やターミナルケアを必要とする利用者の増加、在宅での看取りなど訪問看護の利用を希望する在宅療養者やその家族も増えています。

当ステーションの特色としては、病状や療養生活を看護師の目で見守り、的確なアセスメントに基づいたケアとアドバイスで自立した生活を送れるよう支援すること、また、24時間365日にわたり、療養生活と在宅看取りの支援、精神疾患患者の訪問看護にも取り組んでいます。

## ●目標

医師や他職種との連携した地域の中で、看護専門職を十分生かしながら地域に密着した訪問看護ステーションを目指していきたいと思います。

# そよかぜ

## 私の専門～認定看護師～



一心のこもった質の高い救急看護

救急看護

東京医科大学茨城医療センター

石川景子

「患者さんにより良い看護を提供したい」そのような思いから、認定看護師を志しました。現在は総合救急センターに勤務し、多種多様な疾病・外傷を有した患者さまとご家族に対して、救命技術の実践や精神面の援助を行っています。救急看護は、迅速で的確な判断とりがいと責任を常に感じています。今後も救急医療に携わる人々と協力しながら「心のこもった質の高い救急看護の提供」を目標に全労を尽くしていきたいと思います。救急の場面は人の生死にかかわることも多く、つらい場面もありますが、笑顔を忘れず、患者さまが安心して医療が受けられるように頑張っていきたいと思います。

感染管理



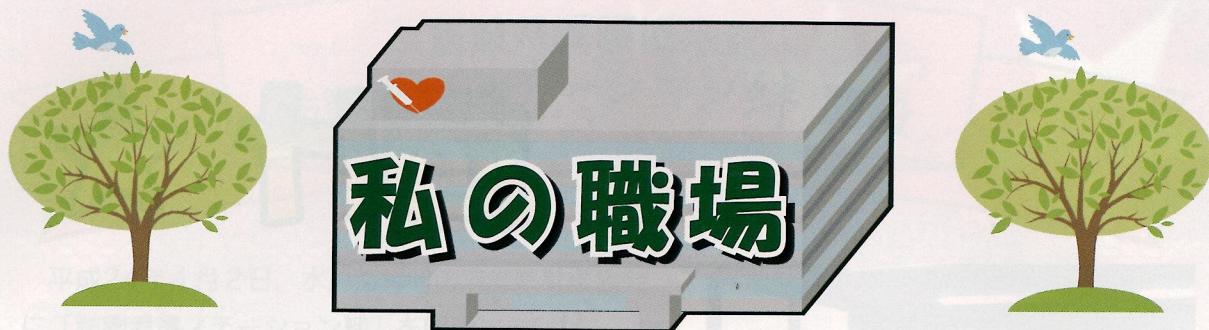
-楽しく活動 感染管理-

守谷慶友病院  
綾部明美

感染管理は患者、家族、医療従事者、施設に来院する人など、病院・施設にかかる全ての人を感染から守ることが目的です。中小病院でも大病院でも施設や家庭でも、目指すところは一緒で、限られた資源の中で最大の感染防止策ができるようにサポートし援助していくことが感染管理認定看護師に求められています。

例えば、手指衛生や防護具の使用について、病院管理者に使用の必要性等の企画書を提出し、職員には知識と技術の勉強会、また、それが継続できるようなシステム作りを行い、病院全体の意識が高まってきています。

世の中の変化に柔軟に対応しながら、患者、家族、スタッフと一緒に考え、行動し、1年後2年後と毎年成果が楽しみです。



## 「豊かな人間性を養う！！」

茨城県立つくば看護専門学校 教務部長 佐藤圭子

当校は平成元年に開校し、この4月には24回目の入学生を迎えるました。学校はつくば市の中心地に位置し、つくばエクスプレス（TX）駅から徒歩5分で都内からのアクセスも良く通学に便利です。また、近隣に筑波大学附属病院、筑波メディカルセンター病院があり、学生の臨地実習場になっています。

当校では「社会に役立つ質の高い看護師を育成する」という教育理念の基に3年間で看護師としての必要な知識・技術・態度が身につけられるように教職員が協力し学生を育てています。その中でも、豊かな人間として育ってほしいという願いのもとに「学校行事・教課外活動」に力を入れています。「スポーツ大会」や「なかよし会・バーベキュー、焼き物作り」などは、全学生と教職員が参加し、交流を深めています。1～3学年までを縦割り班構成にし、学年間の垣根を越えて楽しめるようにしています。

日頃のストレス発散ができ、どの学生も学内での表情と大違い!! 現代の若者らしく楽しんでいます。

臨地実習や学内演習、学校行事を通して、日々、学生とともに学び合い、将来の看護を担う若者達へ夢を託しながら教育に取り組んでいます。



## 「夕方登校し熱心に学ぶ学生達を支援して」

日立メディカルセンター看護専門学校 平澤ツル子

本校は、准看護学科と看護学科の2課程を持つ歴史ある看護学校です。校舎が老朽化したため、平成20年に日立市高鈴町に新校舎を新築しました。教育環境の整った中で約200名の学生が勉学に励んでいます。

看護学科は、准看護さんが看護師の資格取得を目指し通学する夜間定時制（修業年3年）の学科です。学生は、昼間は准看護師として働き夕方登校します。年齢21～50歳代と年齢差はありますが、皆仲良く励まし合って、目標に向かって頑張っています。

そんな学生達の教育に携わってみませんか。

卒業生の将来に期待して！



# 輝け★+

## 社会勉強の毎日

県北医療センター高萩協同病院 矢吹 貢一

「人と接する仕事がしたい」という漠然な気持ちの中、身内に看護師がいたこともあり、看護職を身近に感じていたことが看護師選択への動機となりました。

新卒時は術前後看護から終末期看護までを見る、外科・血管外科病棟に勤務しました。意気込みだけはあったものの、対象のほとんどが人生の先輩方で、社会のことを何も知らない若僧に何ができるのかと、存在意義への疑問や無力感を痛感することが多々ありました。そんな中、対象からのお礼の言葉や訴えから、責任感と自己意識の向上に繋げることができ、皆様に育てられて今に至っていると思っております。現在は循環器・血液内科病棟を経て、ICUでの看護の中で日々社会勉強させていただいております。



## 本当にやりたかったこと

土浦厚生病院 小島 正浩

「あの時、お前がいなかつたらマジ俺生きてねえよ」

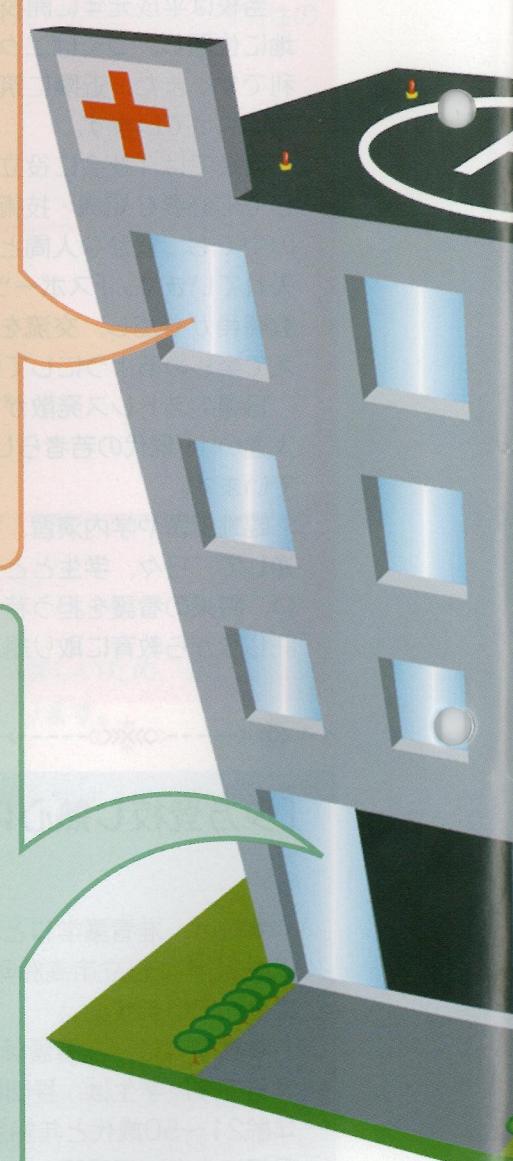
今でも言われる友人の一言。その友人とはプライベートでもよく遊ぶ仲。

ある日、友人は救急車で運ばれた。原因是自殺目的のオーバードーズ、幸い命を落とさずにすんだ。

友人は精神病だとその時初めて知った。悔しかった。何も気づけなかつた自分に。

その日を境に、次の日仕事でどんな時間であろうと、友人から電話があると駆けつけて朝まで話を聞き、一緒にいた。時には車に飛び出そうとするのを殴って止めたこともあった。時間はとてもかかったが現在友人は寛解している。本気で泣いて2人で喜んだ。

そして、看護師が治療過程で一番関わられるのは精神科で自分がやりたい事だと気付いた。今は精神科1年目。まだ手探りだが精一杯頑張りたい。



# ースマン



## 37歳で看護師になった僕

いちはら病院 荒井 創

まったく異なる業種からこの世界に37歳から、飛び込みました。

最初の一年間は、難解な医療用語と年齢によるものなのか仕事がなかなか覚えられず、悩み続ける毎日でした。

しかし、周囲の温かいサポートのおかげで、4年目を迎えるやく仕事の楽しさが見えてくるようになりました。最近は、病棟スタッフとも楽しく仕事ができ、また前職と比べて子どもと過ごす時間も増え公私ともに充実した毎日が過ごせるようになりました。今では、この仕事に就いて本当に良かったと思えるようになりました。今後とも緊張感は保つつづ、看護師として向上していきたい。



## ファイティング パパ

回春荘病院 永井 一登

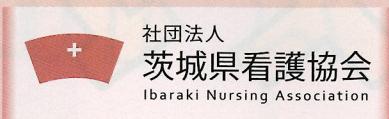
高校卒業間際に、人の役に立つ仕事に就きたいと強く思い、母と姉が看護師の道を歩んでいた事もあり、人と身近にそして直接関わりを持てる素晴らしい仕事だと感じ看護師の道を選びました。資格を取得して5年の月日が経ち、現在は主任心得として日々患者様のケア、スタッフの指導を行いながら奮闘しています。また自分の力不足、勉強不足を痛感しており、より良い看護を提供できるかと考え日々精進しています。今まで一番思い出に残っている出来事は、資格を取り初めて患者様が亡くなった時に家族より「本人は、幸せだったと思います。ありがとうございました」とお礼を言われた時が、昨日のことのように残っており、本当に患者様は幸せに過ごせたのか?と自分の行ってきた看護を振り返り考えさせられる出来事でした。

それから毎日、患者様には今何が必要なのか、何が大事なのか常に念頭に置きながら仕事に励むようになりました。プライベートでは魚釣りや職場の先輩とツーリングに行ったりしてリフレッシュしています。

また長男が産まれ3ヶ月が経ち、日勤が終わるとすぐに帰宅し入浴タイムで息子の笑顔を見ることが私にとって最高のオアシスになっています。



## ～公益社団法人としてスタートしました～



茨城県看護協会は、新公益法人制度改革の施行に伴い、茨城県に公益社団法人への移行を申請していました。茨城県公益認定等審議会の答申を受け、3月27日、茨城県より公益社団法人の認定が通知され、4月1日に特例民法法人の解散登記及び公益社団法人の設立登記を行いました。これにより、茨城県看護協会は公益社団法人としてスタートいたしました。

今後は、公益社団法人としての付託に応えるとともに、公益法人に相応しいガバナンスと透明性の高い組織運営に努めてまいります。

今後とも、会員の皆様のご理解とご支援をよろしくお願ひいたします。

### ■移行経過の概要

- 平成23年6月 通常総会で新定款（案）及び新定款細則（案）を承認
- 11月 茨城県に公益社団法人への移行認定申請書を提出
- 平成24年3月 茨城県から公益社団法人としての認定書が交付
- 4月 水戸地方法務局に公益社団法人の設立登記
- 公益社団法人茨城県看護協会の設立

### ■公益認定を受けることのメリット・従来との変更点は？

#### ○名称独占と社会的信頼性の向上

公益認定を受けることの難易度を考えて、簡単に公益法人となることは難しいため、逆に公益法人の名称を使用することは、公益性の確保と社会的信頼性の向上につながります。

#### ○税務上の優遇措置

公益認定を受けた法人や、公益認定を受けた法人に対して寄付を行う個人や法人には寄付金優遇措置や税務上の優遇措置が適用されます。

#### ○事業活動を見直すことによる組織活性化

本会の恒常的な活動の見直しによって組織が常に活性化することにつながります。公益社団法人格を維持するためには、認定基準を永続的に満たす必要があり、本会の活動に公益性があるという自負、管理体制の強化にもつながります。

#### ○事業活動の制約

一般法人に関しては、基本的に事業活動の制約はありませんが、公益認定を受ける場合には、事業内容の50%以上は公益性をもつもの（公益認定基準の条件に満たす内容）でなくてはなりません。

#### ○行政庁の指導監督

公益社団法人は公益性の確保と事業の適切な運営を維持する観点から、継続的に行政庁の指導監督下に置かれることとなります。定期的な事業報告や、事業内容の変更等による申請・届出が求められ、事業年度ごとに認定基準を満たしているかチェックが入ります。

## 茨城県看護協会立 訪問看護ステーション絆 開設

平成24年4月2日、水戸市緑町の茨城県看護協会に「訪問看護ステーション絆」を開設しました。

4月5日には開所式を無事に執り行うことができました。

県央地区には、初めての看護協会立のステーション開設となりますが、近隣の関係機関をはじめ、他職種の方々と連携を図りながら、在宅療養の方々が安心して生活できるように活動していきます。



### 神事

今後は、超高齢社会にむけ、住み慣れた場所での生活の継続、看取り等、地域の看護・介護ニーズに応えていくよう、地域包括ケアシステムの構築が求められています。

スタッフ一同一丸となり、一步ずつ前へ進んで行きたいと思います。



### 開所式

## 第43回(平成24年度)日本看護学会-成人看護II-学術集会「ご案内」

とき：平成24年11月6日(火)、7日(水)

ところ：つくば国際会議場

定員：1,600名

●演題受付＝7月5日(木)～7月9日(月) 12:00終了

●事前参加登録受付＝7月30日(月)～10月16日(火)

※詳細は、本会HPに掲載します。

### 学術集会テーマ「決してあきらめない 看護の知と技への挑戦」

特別講演 「あきらめない知と技への挑戦 ー今、リーダーに求められるものー」

講師 川口淳一郎 (独立行政法人宇宙航空研究開発機構【JAXA】教授)

教育講演 「超高齢社会を科学する」

講師 秋山弘子 (東京大学高齢社会総合研究機構特任教授)

パネルディスカッション

「慢性疾患領域でのチャレンジー特定看護師(仮称)

業務試行事業実施施設からの報告ー」

## 今後の地区活動について

### ～地区が7地区から9地区に再編されました～

本会ではこれまで、県内を7地区に分け、施設代表者会議やまちの保健室、地区別研修会等の地区活動を行って参りました。

公益社団法人としてスタートした平成24年度からは、地区を二次保健医療圏にあわせた9地区に再編し、地区活動を展開して参ります。

引き続き、皆様のご支援とご協力をお願いします。



平成24年4月1日の公益社団法人移行に伴い、平成23年度通常総会で承認された地区理事3名をご紹介いたします。

新たな地区編成での活動となりますが、よろしくお願いいたします。

### 常陸太田・ひたちなか地区理事

### 鈴木典子



#### 一地域に住む人々の健康を支えるためにー

看護は人々の「生」を守り、生きることを支える仕事です。看護協会の一員として、地区の施設の方と連携し、様々な活動を通して、地域に住む人々が健康で安心して生活ができるよう努めていきたいと思います。皆様どうぞよろしくお願い致します。

### 土浦地区理事

### 猪瀬留美子



#### 「看護をより身近なものに」

地域住民と看護職のふれあいの場をつくることで、地域の皆様が健康についての不安や悩みを気軽に相談していただける場を提供していかなければと考えています。そのためにも、看護がより身近なものになるように会員の皆様と連携し、地区理事として役割を遂行し地区活動の活性化を図り普及してまいります。

### 古河・坂東地区理事

### 船山妙子



#### 「地区施設間の連携強化を」

今年度からの新しい地区ですので、施設間相互の親睦を図り、地区の現状を把握していきたいと考える。

そして、地区内の協会員・非協会員の「つぶやき」「声」に耳を傾け、職能団体としての「組織力」の強化に務めたい。



<b>水戸地区</b>	水戸市、笠間市、小美玉市、茨城町、大洗町、城里町
<b>日立地区</b>	日立市、高萩市、北茨城市
<b>常陸太田・ひたちなか地区</b>	常陸太田市、ひたちなか市、常陸大宮市、那珂市、東海村、大子町
<b>鹿行地区</b>	鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市
<b>土浦地区</b>	土浦市、石岡市、かすみがうら市、
<b>つくば地区</b>	つくば市、常総市、つくばみらい市
<b>取手・竜ヶ崎地区</b>	龍ヶ崎市、取手市、牛久市、守谷市、稻敷市、美浦村、阿見町、河内町、利根町
<b>筑西・下妻地区</b>	結城市、筑西市、下妻市、桜川市、八千代町
<b>古河・坂東地区</b>	坂東市、古河市、五霞町、境町

## 「平成24年度公益社団法人茨城県看護協会通常総会」開催

平成24年6月15日(金)、水戸プラザホテルにおいて通常総会が開催されます。

また、選挙管理委員会からの改選役員候補者の公示は別刷となっております。

なお、昨年度から実施している総会要綱の全会員配布に向けて準備中です。

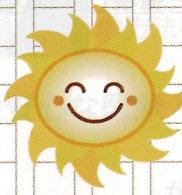
要綱が出来上がり次第、送付いたします。もうしばらくお待ちください。

No. \_\_\_\_\_

## 大募集!!

### ☆輝け!ナースマン

職場の男性看護師。自薦・他薦問いません。



### ☆私の職場

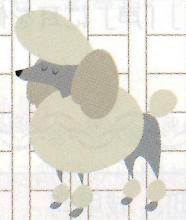
職場自慢・職場紹介など



### ☆表紙を飾る写真

あなたの作品が表紙を飾るかも♪

※写真は茨城県にちなんだものに限ります。



### ☆私のペット自慢

ペットの写真、名前、飼い主の所属、氏名

投稿は、茨城県看護協会広報担当まで

e-mail : [ibakango@olive.ocn.ne.jp](mailto:ibakango@olive.ocn.ne.jp)

20×20

## お詫びと訂正

平成24年1月20日発行「看護いばらき96号」のP6『辰年 年男・年女あつまれ!!』において、お名前の記載に誤りがありました。古河赤十字病院 印出恵子様は誤りで、正しくは岡安祥子様です。誠に申し訳ございました。

## 編集後記

今年度は茨城県看護研修センターがリニューアルし、看護いばらきも100号を迎えます。

皆さんにより身近に感じていただけるよう、皆様からのご意見・ご要望をお待ちしております。

広報委員一同

